

# 平成29年8月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年7月7日

上場会社名 株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス  
 コード番号 2927 URL <http://www.ams-life.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅山雄彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 社長室部長 (氏名) 土屋昭弘

TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 平成29年7月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成29年8月期第3四半期の連結業績(平成28年9月1日～平成29年5月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期第3四半期	11,112	2.1	726	2.6	703	6.7	374	14.2
28年8月期第3四半期	10,879	5.8	708	17.6	659	17.2	436	10.3

(注) 包括利益 29年8月期第3四半期 378百万円 (6.3%) 28年8月期第3四半期 403百万円 (1.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年8月期第3四半期	30.95	
28年8月期第3四半期	36.09	35.98

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年8月期第3四半期	16,306	7,569	46.4
28年8月期	16,343	7,372	45.1

(参考) 自己資本 29年8月期第3四半期 7,569百万円 28年8月期 7,372百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年8月期		5.00		10.00	15.00
29年8月期		5.00			
29年8月期(予想)				5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成29年8月期の連結業績予想(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	2.5	1,050	17.9	1,000	23.1	500	2.1	41.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年8月期3Q	12,189,720 株	28年8月期	12,189,720 株
期末自己株式数	29年8月期3Q	80,969 株	28年8月期	80,903 株
期中平均株式数(四半期累計)	29年8月期3Q	12,108,787 株	28年8月期3Q	12,094,658 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見直し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成28年9月1日～平成29年5月31日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や個人消費に持ち直しの動きがみられるなど緩やかな回復基調が続いております。一方、海外経済に不透明感があり、円高をもたらすリスクとして警戒されております。

当社グループが属する健康食品市場は、高齢者人口の増加と消費者の健康維持・増進、美容・アンチエイジングに対する意識の高さから、引き続き堅調に推移すると思われまます。また近年、スーパーフードやオーガニックなど自然由来の食品の需要が増加傾向にあり、消費者の志向が多様化しております。

このような状況下、当社グループは、酵素、酵母関連商品に加え青汁関連商品が好調に推移したOEM部門のほか、通信販売部門・海外部門が増収となり、連結売上高は11,112百万円(前年同期比2.1%増)となりました。損益面については、増収による売上総利益の増加により、営業利益は726百万円(前年同期比2.6%増)、経常利益は703百万円(前年同期比6.7%増)となったものの、役員退職慰労金などの特別損失を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は374百万円(前年同期比14.2%減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ①ヘルスケア事業

##### ・OEM部門

当社グループの基幹事業である当部門は、引き続き酵素・酵母関連商品、青汁関連商品などが安定的に成長いたしました。加えて、ドラッグストア向け定番商品のアイテム拡大による受注が増加いたしました。さらに、プラセンタ商品が急成長いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期を上回りました。また、前述により各ロットが大きくなったことで生産効率が良くなり、利益率が向上いたしました。

##### ・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、ベトナムのOEM顧客における美容商材の受注が伸長したことなどにより、売上高は前年同期を上回る結果となりました。近年ベトナムは経済成長が著しく、今後も販路拡大に向けて注力してまいります。

##### ・通信販売部門

ブランド戦略として、主力商品『葉酸サプリ』を始めとする結婚、妊娠、出産を経験する世代をターゲットとした商品群を新ブランド「mitete(みてて)」として順次切り替えを行い、販売いたしました。引き続き、ネット受注を中心に『葉酸サプリ』、クロスセル商品『マタニティクリーム』『はぐマカ』『キッズサプリ』がいずれも伸長いたしました。また、電話受注においては、静岡県内のチェーンドラッグストアとの共同企画による広告展開を継続しており、安定的な受注に繋がっております。その結果、当部門の売上高は前年同期を上回りました。

##### ・卸販売部門

コラーゲンを特集したテレビ放映が影響し、『華舞の食べるコラーゲン』などコラーゲン関連商品の受注が伸長いたしました。また、ネット販売で好調の『葉酸サプリ』を、乳幼児用品を販売する大型チェーン店3社へ卸販売を開始し、販売店舗数も順次拡大いたしました。しかしながら、本草製薬(株)において、前年同期に好調であったインバウンド向け商品の受注が減少したことなどにより、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

・店舗販売部門

当部門は、“百貨店における店舗販売” “百貨店外商部との協同販売” “百貨店とタイアップした通信販売” の3つを主要な販路としております。

引き続き、百貨店外商部、店舗において頒布会を積極的に提案し、優良顧客の囲い込みによる収益の拡大と安定化に努めました。また、スムージーや青汁などの食品寄り商品が好調に推移いたしました。しかしながら、前年同期に好調であったインバウンド需要の減少、ならびに店舗数の減少による減収が影響し、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高10,267百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益1,130百万円（前年同期比1.5%増）（全社費用調整前）となりました。

②医薬品事業

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、新たな取扱製品を投入したことに加え、主力の製造承認を取得した医療用漢方製剤について、医師、薬剤師及び医薬品卸の営業担当者に対して、品質・安全性の確保に対する取り組みのほか、他社製剤と比較しても効能効果の同等性はもちろんのこと、患者さんの経済的負担（医療費の自己負担）が小さいことなどを説明してきました。

また、一般用医薬品事業については、昨年1月より(株)エーエフシーの通販事業において本草製薬(株)が製造する漢方薬の販売を開始し、一定の成果を上げたほか、昨年6月よりチェーンドラッグストアと販売提携し広告投入による拡販が奏功いたしました。

しかしながら、本草製薬(株)において不採算品目の漢方製剤の販売を控えたことが影響し、医薬品事業全体では、売上高が845百万円（前年同期比11.4%減）、営業損失24百万円（前年同期は28百万円の営業損失）（全社費用調整前）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ186百万円減少し、8,045百万円となりました。この減少要因は主として、商品及び製品が204百万円、仕掛品が128百万円増加した反面、役員退職慰労金の支払などにより現金及び預金が546百万円減少したことによるものであります。

### ②固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ149百万円増加し、8,260百万円となりました。この増加要因は主として、減価償却などにより建物及び構築物（純額）が79百万円減少した反面、医薬品工場の改装などにより有形固定資産のその他（純額）が211百万円増加したことによるものであります。

### ③流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,374百万円増加し、7,375百万円となりました。この増加要因は主として、返済期限が1年内に到来する長期借入金が固定負債から振替られたことなどにより、短期借入金が1,352百万円増加したことによるものであります。

### ④固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,608百万円減少し、1,361百万円となりました。この減少要因は主として、返済期限が1年内に到来する長期借入金が流動負債へ振替られたことなどにより長期借入金が1,308百万円減少したことに加え、役員退職慰労引当金が213百万円減少したことによるものであります。

### ⑤純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ196百万円増加し、7,569百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が193百万円増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年12月16日の「役員退職慰労金の贈呈に伴う特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,722,581	3,176,078
受取手形及び売掛金	1,895,580	1,892,142
商品及び製品	872,300	1,076,467
仕掛品	692,871	821,082
原材料及び貯蔵品	820,134	779,903
その他	239,489	310,896
貸倒引当金	△10,760	△10,667
流動資産合計	8,232,198	8,045,903
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,689,172	2,609,757
土地	4,243,229	4,243,229
その他(純額)	677,044	888,250
有形固定資産合計	7,609,446	7,741,237
無形固定資産		
のれん	4,081	3,316
その他	90,900	100,329
無形固定資産合計	94,981	103,645
投資その他の資産		
その他	470,207	475,552
貸倒引当金	△63,119	△59,895
投資その他の資産合計	407,088	415,657
固定資産合計	8,111,516	8,260,541
資産合計	16,343,714	16,306,444
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,821,926	1,716,166
短期借入金	2,928,393	4,280,477
未払法人税等	135,658	74,302
賞与引当金	109,200	259,103
ポイント引当金	11,924	15,606
その他	994,186	1,029,689
流動負債合計	6,001,288	7,375,344
固定負債		
社債	156,000	108,000
長期借入金	1,776,594	468,590
役員退職慰労引当金	381,433	167,563
退職給付に係る負債	239,127	262,597
負ののれん	2,816	2,393
その他	413,821	352,595
固定負債合計	2,969,792	1,361,739
負債合計	8,971,081	8,737,084

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	1,405,498
資本剰余金	1,469,539	1,469,539
利益剰余金	4,572,563	4,765,671
自己株式	△59,229	△59,284
株主資本合計	7,388,371	7,581,424
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△15,738	△12,064
その他の包括利益累計額合計	△15,738	△12,064
純資産合計	7,372,633	7,569,360
負債純資産合計	16,343,714	16,306,444



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)
売上高	10,879,907	11,112,798
売上原価	7,608,618	7,713,874
売上総利益	3,271,289	3,398,924
販売費及び一般管理費	2,562,634	2,672,161
営業利益	708,654	726,762
営業外収益		
受取利息	249	49
受取配当金	847	1,506
受取賃貸料	13,962	13,955
負ののれん償却額	422	422
損害賠償金収入	—	4,377
助成金収入	—	7,626
その他	8,993	6,327
営業外収益合計	24,476	34,264
営業外費用		
支払利息	60,786	49,538
その他	12,823	7,568
営業外費用合計	73,610	57,107
経常利益	659,519	703,920
特別利益		
固定資産売却益	58	—
投資有価証券売却益	2,703	20,185
ポイント引当金戻入額	14,584	—
新株予約権戻入益	539	—
補助金収入	—	24,000
債務免除益	—	12,675
特別利益合計	17,885	56,860
特別損失		
固定資産除却損	12,594	33,499
投資有価証券売却損	1,377	—
投資有価証券評価損	6,418	—
役員退職慰労金	—	224,475
特別損失合計	20,390	257,974
税金等調整前四半期純利益	657,014	502,806
法人税、住民税及び事業税	222,279	166,234
法人税等調整額	1,927	△38,167
法人税等合計	224,206	128,066
四半期純利益	432,807	374,739
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,716	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	436,524	374,739

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)
四半期純利益	432,807	374,739
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△28,930	3,673
その他の包括利益合計	△28,930	3,673
四半期包括利益	403,876	378,413
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	407,593	378,413
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,716	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年9月1日 至 平成28年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	9,925,693	954,214	10,879,907
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	9,925,693	954,214	10,879,907
セグメント利益又は損失(△)	1,114,134	△28,769	1,085,365

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,085,365
全社費用(注)	△376,711
四半期連結損益計算書の営業利益	708,654

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成28年9月1日至平成29年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	10,267,353	845,445	11,112,798
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	10,267,353	845,445	11,112,798
セグメント利益又は損失(△)	1,130,475	△24,889	1,105,585

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,105,585
全社費用(注)	△378,822
四半期連結損益計算書の営業利益	726,762

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。